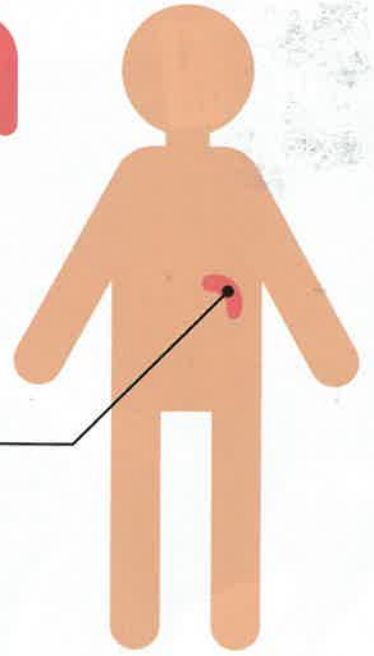


臓器のはなし



ひ 脾臓

黒子的な存在ながら 免疫面で重要

抗体をつくり 血液を浄化する

腹部の左上、胃の外側から裏側に位置する自立たない存在が「脾臓」です。成人なら、握りこぶしほどの大きさで重さは100g前後、スポンジ状の柔らかい臓器です。「白脾髄」と「赤脾髄」2種類の組織で形成され、それぞれ異なる機能を

持っています。白脾髄はリンパ球が集まってできるリンパ組織で、白くぼく見えます。そのリンパ球によって細菌やウイルス感染を防御する「抗体をつくってくれます」。

赤脾髄は、白脾髄の周囲にある赤褐色の部分。血液をろ過することにより、不要な物質を取り除いてくれます。また血液中の赤血球の状態を監視する役目も。赤血球の寿命は約4か月といわれており、古くなる

自ら血小板を壊す 発見が難しい病気も

昔は脾臓の役割が解明されておらず、炎症を起こして胃などを圧迫した場合など、すぐに手術で切除するケースが多かったようです(脾臓を取っても、すぐ命に関わる状態になるわけではありません)。しかし長期的に見れば免疫機能が落ち、感染に対する防御能力が低下します。です

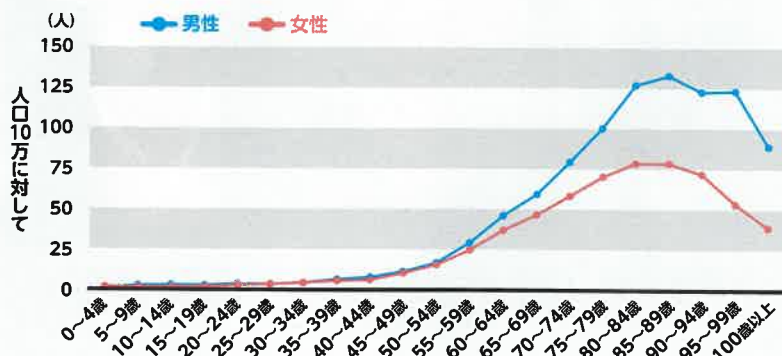
から現代の治療では、リンパ組織に問題がなければ脾臓を残さずという考え方が主流になっています。なお脾臓の中の腫瘍化したリンパ球が増殖する「血液のがん」の一種「悪性リンパ腫」の場合は、基本的に脾臓を除去すると思います。

また脾臓に関わる病気として、特発性血小板減少症があります。原因不明ですが、血小板に対する抗体がつくられ、抗体のついた血小板が脾臓で破壊されるという病気です。

血小板は、出血した箇所に着して止血する役割があります。血液中に通常1マイクログリットルあたり、10数万个の血小板が含まれているのですが、約1〜2万个を下回ると危険です。血小板の数値が極端に下がらないと自覚症状は、ほとんどありません。薬の投与で血小板が回復する場合もありますが、重症だと脾臓の摘出手術を受けるでしょう。

特発性血小板減少症は専門性の高い難病で、血液検査を行わないと病気を発見するのは難しいもの。血液検査で血小板の数値が下がっている場合は、専門の血液内科のドクターに調べてもらってください。

「悪性リンパ腫」の年齢別罹患率(2019年)



出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」より

監修

浅海 直
あざみ すなお
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。